

学校だより青南

10月号

令和4年9月30日

港区立青南小学校

校長 野口 直樹



秋と読書

校長 野口 直樹

朝、青南小学校の正門をくぐると、正門そばの金木犀からの芳香が心地よく、鈴虫の音も聞こえてきます。昇降口を抜ければ、正面に秋を感じさせる生け花（菊・吾亦紅・鶏頭）が見えます。季節の花々に自然と触れることができ、「なんと幸せなことでしょう。」と感じています。保護者の皆様、地域の皆様ありがとうございます。青南小学校は、秋の装いです。

秋は、過ごしやすい気候となり夜もだんだん長くなっていきます。秋の暮らしを表す言葉は、数々あります。スポーツの秋、芸術の秋、食欲の秋、読書の秋。その中でも、今回は、読書の秋について触れたいと思います。

小学生の頃、最初に読破した長編の物語文は、ジュール・ベルヌの「月世界旅行」（1865年）でした。私がこの本を手にしたときには、すでにアポロが月に降り立ち、ロケットが宇宙に行くということが、現実となっていました。ですから、作中にある「砲弾に人を乗せて月を周回する」という話や挿絵が滑稽に見えたのを覚えています。しかし、話の内容が面白く夢中で読みました。（内容は詳細には覚えていません）次に手にしたのは、「ソロモン王の洞窟」でした。この本は、当時の私にとって絶望的に分厚く「読み切れるか」と思っていました。その圧倒的なドラマ性に引き込まれすぐに読み切ってしまったと記憶しています。（こちらも、内容は覚えていません）この2作品で、読書に目覚めた私は、図書館のコナン・ドイル作品にはまっていきました。学校の図書館にあった、ホームズシリーズは、全て読んだと思います。その本とほぼ装丁が変わらない本が、青南小学校図書館にあるのを見るとちょっと嬉しくなりました。

これらの本は、当時の私を様々な世界に連れて行ってくれました。シャーロックホームズを読めば、時々入る挿絵から、行ったことも、見たこともないロンドンの薄暗い路地にドキドキし、また、ある時は、アフリカの奥地にある秘宝を探す探検家となり、アフリカの大地を旅した気分になっていました。どれも子供の自分には、身近にないことばかりでした。インターネットもなく海外に行くことも当たり前ではない当時でも、想像は広がりました。時代を超えて、愛され続ける名著には、きっと読み手の想像力を掻き立てる力があるのだと思います。ジュール・ベルヌは、「人間が想像できることは、人間が必ず実現できる」と語ったとされています。彼の本に触発された子供が、後に彼の作品に出てくる奇想天外なもの（こと）を現実の社会に生み出したとすれば、なんと面白いことでしょう。想像の翼を広げてくれる本の世界の素晴らしさがそこにあると思います。

また、先日目にしたニュースに、京都の高校生が、図書館で手に取った本から、水中考古学に興味をもち、地元の海にも海中遺跡があるかもしれないと考えて、クラウドファンディングで資金調達し（現代的です）、遺跡調査を行い実際に、遺跡を発見したとありました。これも、本がなせる想像の翼を広げたからだと考えます。

私が子供の頃は、テレビが隆盛を迎え、当時の大人たちは、「子供たちが本を読まなくなる」と言っていました。実際、大人たちの危惧通り、日常的に本を読む人は減ってしまいました。しかし、様々なメディアが気軽に楽しめる近年、読書をする人、読む冊数は、増加傾向にあります。令和3年に実施された「第66回学校読書調査」（全国学校図書館協議会）によると、「令和3年5月1か月に読んだ本の冊数」は、小学生が12.7冊で前回比1.4冊増との結果でした。これは、過去31年分の調査の最高値となったそうです。

秋の夜長に、テレビやインターネットから離れて、読書してみてもどうでしょう。想像してみてください。家族で一つのテーブルに集まり、それぞれが読んだ本について思ったことを話している様子を。なんとも幸福な時間がそこに流れている気がしませんか。私も、久しぶりにお気に入りの本を、引っ張り出してこようと思います。

10月の生活目標

【言葉遣いに気を付けよう】

生活指導部

青南小の子どもたちはみんな、優しい心や前向きな気持ちをもっていると思います。ですが、間違った言葉遣いによって、その素敵な心や気持ちが伝わらずにすれ違ったり、喧嘩になったり、相手や自分自身を傷つけてしまうことも起こります。子どもたちには、丁寧な言葉遣いによって、自分も周りのみんなも心地よい気分になり、良い関係を築けることに気付き、実践していきたいという意欲をもってほしいと思っています。そのために、日頃から誰に対しても丁寧に優しい言葉遣いで話せるよう、指導していきます。

言葉遣いによって周りの人たちと良い関係を築いていく力は、大人になってからも子どもたちを支えてくれると思います。是非ご家庭でも、丁寧に優しい言葉遣いを子どもたちにご指導ください。

【 2年 】

2年生は、9月の水泳指導最終日まで水遊びを行いました。去年はほとんど入ることができなかったプールですが、今年は全クラス4回入ることができました。全校共通ですが、2年生も安全第一で、教師の話をよく聞くことを約束し、水遊びを楽しみました。回を重ねる中で、待ち方、並び方、話の聞き方に子どもたちの成長が見られました。水遊びの内容としては、潜ることや浮くことに加え、後半はビート板を使ったけのびに時間を使いました。しっかりと床を蹴って真っ直ぐに伸びて進むことができる子が増えました。水が苦手な子たちも、自分のペースでできることに励みました。3年生からのバタ足につなげてほしいと思います。

最後に、夏休みの自由研究のご協力ありがとうございました。一生懸命に取り組んだことが分かるものばかりでした。子どもたちは、互いの作品や研究に興味をもち、見たり触ったり遊んだり大変楽しみました。

【 5年 】

9月16日(金)に5年生は静岡県小山町に行ってきました。そこで稲刈り体験をしてきました。

小山町の方に鎌で稲を刈る方法を教えてもらい、いざ実践です。教えてもらった通り鎌を使いみんな上手に稲を刈っていました。稲刈りを始めるとみんな夢中で稲を刈り、あっという間に刈った稲の山がいくつも出来上がりました。「稲を刈るの楽しい!!」との声も上がりました。

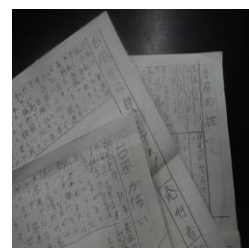
でも、田んぼ1つを90人で刈っても刈り終えることができませんでした。1学期の社会科で「米作り」を学習し農家の人の苦労を頭で分かってはいましたが、今回のこの体験を通して農家の方の苦労を身をもって体験することができた5年生でした。

みんなが刈り残した所をコンバインが刈っていく様子も見ることができ、機械で作業を行うことの利点も改めて実感しました。

校外での良い学習となる一日でした。

【 理科 】 科学の力で

台風の被害が報告されています。年々台風の姿も変化しているように思います。5年生は、周囲の人を災害から守ろうという目的で「台風新聞」を作成しています。自然現象を正しく理解して、効果的に情報を活用することが必要です。このように、自然災害から身を守ったり、環境保全に取り組んだりする姿勢を育てることも理科学習の大きな役割です。子どもたちからの



発信は社会の中で大きな効果をあげることがあります。時々刻々と変化する地球の姿に目を向け、科学の目でみて、対応することが求められるようになってきています。一人一人が科学の担い手としての自覚を持って学習に取り組んでいます。学校での学習をご家庭に広げ、話題にさせていただければと思います。

【 集会委員会 】

集会委員会の活動は、一年間の児童集会の企画と運営です。

コロナ禍となり、数年前まで行っていた形での集会ができなくなってしまいました。全校で集まらないさびしさ、対面のように行えない不自由さもありますが、みんなで力を合わせ、オンラインならでの集会活動を開催できるよう、工夫しながら頑張っています。

年間の集会を分担し、グループごとに原案を考え、毎月の委員会にて全員で内容を検討しています。計画→打ち合わせ→撮影→編集→チェック→再編集→……等、一つの集会をつくり上げるまでにタブレットをフル活用し、みんなで役割分担しながら取り組んでいます。高学年の児童にとっては、授業の合間、放課後等に活動時間をつくることは容易なことではありませんが、集会委員としての自覚と責任感が活動の原動力となっているようです。

秋以降も、集会委員一同、全力で取り組んでいきます。どうぞ、温かな応援をお願いします。

【 イラスト・マンガクラブ 】

イラスト・マンガクラブは、自分の好きなイラストや漫画を描き、各々が好きなことを自由に表現しています。クラブのメンバーは、好きな描き方も得意なスキルもそれぞれです。道具も多岐にわたり、えんぴつから色鉛筆、サインペンや本格的なペンセット等、活動開始の合図で大切に取出して使っています。今年は、個々の時間だけでなく、4・5・6年生が関わりながら活動する時間が作れるクラブにしようと、年間を通して以下の三つの活動を行うことが決まりました。

- ①クラブのキャラクター作り(合同作品を作る)
- ②作品の発表会
- ③作品の展覧会

1学期は、①を行いました。好きな画風や得意な描き方ごとにグループを分け、6年生が中心となってキャラクター作りを行いました。完成した作品は全体で共有し、話し合いを通して「イラストくんとマイカちゃん」というキャラクターが誕生しました。今後はこのキャラクターを使った合同作品を作る予定です。

このように、全く違う好みや考え方の児童が集まって合同作品を作ったり、それぞれのメンバーが表現する個性的な作品と触れ合ったりしながら、2学期以降も児童主体に活動していきます。

【 卓球クラブ 】

卓球クラブは、初心者・経験者関係なく、全員で卓球を楽しんでいます。6年生を中心に、準備、グループ分け、ゲーム、活動内容の話し合い、片付け等、子どもたちがすすんで行っています。「たくさん打ちたい!」「もっと上手になりたい!」「ゲームで勝てるようになりたい!」という思いをもつ子どもたちはばかりで、一球一球を大切に、真剣に練習する姿から、意欲の高さが伝わってきます。

卓球が大好きな子どもたち。やはり、ゲームは大盛り上がりです。勝てば喜び、負ければ当然悔しがりながらも、毎回多くの子どもたちの上達している様子が見られます。同じグループで声を掛け、友達と一緒に楽しみながら上達できていることも、卓球クラブの良いところだと感じています。

今後は、個人戦や団体戦など形式を決めたゲームをたくさん取り入れたり、ゲームに向けた練習メニューを考えたりする楽しみもありそうです。6年生を中心に子どもたちがより意見を出し合い、さらに充実した活動が行えるよう、声掛けをしていきたいと思います。